



第5学年国語科

単元名 5年2組の真剣十代しゃべり場

～自分の考えをもって、話し合って深めよう～

【単元において育成を目指す資質・能力】

- 互いの考えや意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめたり広げたりする力。
- 思考に関わる語句の量を増やし、話し合いの中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにする力。

【導入】前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。

めあて

たがいの考えを明確にしながらか話し合い、
自分の考えを深めよう。

課題設定の工夫

話をつなぐことを意識して、内容が広がるような話し合いをしましょう。
最後の「しゃべり場」をぜひ楽しんでください。

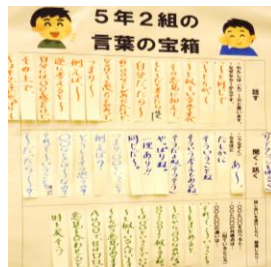


司会を事前に決め役割を果たしながらの話し合いではなく、「しゃべり場」では、形式ばらずに自分の考えを語り合うという言語活動にした。児童にとっても新たな挑戦であり、「面白そう」「やってみよう」という興味・関心につながる。

【展開】7～8人グループになって『真剣十代しゃべり場』を行う。

なるほどね。つまり、こういうことかな？みんなはそれについてどう思う？

考えをもち、表現するための工夫①



友達の考えを聞いて、自分の考えがはっきりしました。

話し方・聞き方・つなぎ方の話型モデル「5年2組言葉の宝箱」の提示

単元を進める中で、児童が使った話し方や聞き方、話し合いの進行の仕方に関する語句を「5年2組の宝箱」として書き留めた。

【終末】テーマに対する自分の考えや学習内容を振り返る。

考えをもち、表現するための工夫②

自分の考えをあらかじめメモしておいたり、話し合いながら友達の意見をメモしたりするワークシートを活用し、話し合いの要点をまとめながら、自分の考えと比較できるようにする。

○成果と●課題



- 「まとめると…」「逆に考えると…」「つまり…」など、『言葉の宝箱』の言葉が意識的に使われていて、話し合いをつないでいく姿が多く見られた。
- 普段の授業外での取組が、話し合いの姿に表れていた。日々の積み重ねが大切。
- お互いの意見を認め合いながらか話し合いが温かい雰囲気の中で進められていた。
- 4グループが同時に話し合いを行うと教師一人で見取ることが難しい。
- テーマの設定の仕方が難しかった。